

民児協の組織向上に向けた取り組み

三富地区の活動

【1】民児協活動の活性化

①民児協活動の工夫 ②広報啓発活動

【2】顔の見える活動

【3】福祉行政機関との連携・情報発信



山梨県山梨市 三富地区民児協
会長 荻原 真紀子

三富地域の概要



山梨市

面積：289.8km² (県内4位)

世帯数：14,895世帯

人口：32,210人

(令和8年4月1日現在)

高齢化率：35.5% (令和7年4月1日現在)



合併前3市町村と11地区

面積：134.9km²
※山梨市の46.5%

- ❖世帯数：344世帯
- ❖人口：643人
- ❖高齢化率：
49.45%【R8年】
37.07%【H28年】
- ❖一人暮らし高齢者：
94人【R8年】
58人【H28年】
- ❖幼児・保育園児：13人
小学生：14人
中学生：7人
高校生：11人

【1】民児協活動の活性化

①民児協活動の工夫



令和7年12月1日から新体制でスタート。
三富地区民児協は、民生児童委員が10名で構成
そのうち1名が主任児童委員。再任の3名に、
新任7名が加わり、毎月第3火曜日の午後1時
半から定例会を行い、地区社協の評議員として
も地区の福祉充実のため日々活動。

各民生児童委員から希望を聴取

↓
年間研修計画を策定

↓
出前講座の受講を計画

↓
講師や委員間における意見交換を積極
的に行い、着実かつ現場で速やかに活
用できる知識の習得に繋げる。



R8 年間研修計画（出前講座）

- 4月：ここが知りたい「成年後見制度」（社会福祉協議会）
- 5月：健康診断受けていますか（健康増進課）
- 6月：精神障害者施設白樺園の視察研修（視察）
- 7月：ここが知りたい「高齢者虐待」（高齢者・介護支援課）
- 8月：チャレンジ！みんなでごみ減量化（環境課）
- 9月：地域ぐるみの防災対策（防災危機管理課）
- 10月：障がい者支援等について（福祉課）
- 11月：生活困窮者自立支援制度とは？（福祉課）
- 12月：ここが知りたい「介護予防・フレイル予防」（高齢者・介護支援課）
- 1月：空き家対策（地域資源開発課）
- 2月：気をつけよう 消費者トラブル(商工労政課)
- 3月：ここが知りたい「認知症」（高齢者・介護支援課）

【1】民児協活動の活性化

②広報啓発活動

●5月12日から5月18日までの
「民生委員・児童委員活動強化週間」に合
わせ、委員から三富民児協のスローガンを募集
し、民児協活動の広報ツールとしてののぼり旗
を製作&三富支所に掲揚

- 新たな取り組みとして地区民児協だよりを作成&全戸配付
- ★身近に相談できる相手であることを周知
- ★行政の福祉サービス等を掲載
- ★行政機関へのつなぎ役として活動していることを啓発
- ★地域の方の暮らしぶりの把握と見守り活動を発信



活動の最重点は、

【2】顔の見える活動

区長会、民児協、地区社協、老人クラブ、公民館、消防団、観光協会、食生活改善推進委員、農業委員、愛育会、ボランティア等で「みとみ活性化協議会」を構成、地域活性化を目指し連携して活動している。

① 地区社協と合同で開催

- ★すこやか講座（6月）
- ★福祉運動会（9月）
- ★福祉まつり（11月）

② 活性化協議会と合同で開催

- ★夏まつり（7月）
- ★紅葉まつり（11月）
- ★桜を植える会（2月）

③ ボランティア主催<民児協協力>

- ★ミニデイサービス
 - ・七夕まつり（7月）
 - ・クリスマス会（12月）
 - ・ひなまつり会（3月）

④ 地区防災会議

- ★防災会議（5月）
【出席者】区長
民生委員 消防団
市防災危機管理課



【3】福祉行政機関との連携・情報発信

福祉行政機関との連携・協力⇒ 地域住民を把握し、つなぎ役として活動

①【山梨市高齢者・介護支援課実施事業】

★認知症ネットワーク(山梨市徘徊SOSネットワーク事業)の啓発(7人)

★ふらっとよりみち相談会

★ふれあいペンダント(高齢者等緊急通報システム事業)を普及
(利用者は、市内88人 三富地区7人)

★配食サービスの実施(5人) ★ふとん洗濯・乾燥サービスの実施(0人)

②【山梨市高齢者・介護支援課 & 山梨市社会福祉協議会実施事業】

★独居高齢者(75歳以上)自宅訪問事業(80人)

水を配付しながら健康状態や困りごとの確認を行い、行政につなぐ。

③【山梨市福祉課 & 山梨市社会福祉協議会実施事業】

★敬老品配付事業(88歳お祝い)市:1万円、社協:タオル(12人)

★歳末助け合い事業(ひとり暮らしの85歳以上)の方(23人)

共同募金3,000円 市:パックご飯

山梨市徘徊SOSネットワーク事業

登録者
山梨市全体で200人弱
うち、三富地区は7人

- ・認知症になると物忘れが多くなるため、家を出たとき自分がどこにいるのかわからなくなり、行方不明となることがある。
- ・このネットワークは、事前に届出をしておくことで、実際に高齢者等が行方不明になったとき、一刻も早く捜索、発見して家族のもとに安全に帰れるよう、高齢者の生命と安全を守るための仕組み。
- ・申請された登録届用紙は、市高齢者・介護支援課で保管され、その写しは申請者、地元警察署、養護老人ホームで共有し、捜索時の連絡を取り合う際と一時保護が必要となった場合に活用される。
- ・地域の協力者が増え、介護者の気持ち楽になる。

【登録した家族の声】

- ・近所で見守ってくれる人が増えた。
- ・発見が早く、家族のもとに安全に帰れた。
- ・いつもそばにいないことができないので助かる
- ・一人暮らしのため安心した。など

6

ふらっとよりみち相談会



ひとりぼっちで困っている市民がいない地域を目指す新たなアウトリーチの取り組み

○市役所に相談に出向くことが難しい方が、身近な公民館で日頃気になっていたこと、暮らしの困りごとを相談できる場

【参加数】 令和6年度 山梨市全体(27会場)504人 内三富(4会場)52人
令和7年度 山梨市全体(24会場)562人 内三富(2会場)37人



専門職による個別相談

医師、保健師、看護師、管理栄養士、社会福祉士、理学療法士、作業療法士等の保健・医療・福祉の専門職が地域に出向く相談会



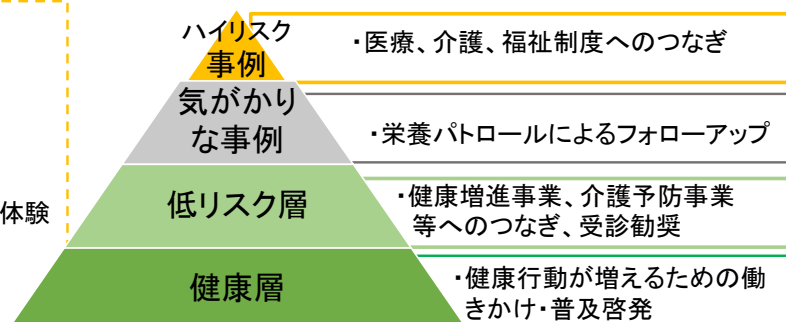
管理栄養士が考案したメニューをキッチンカーで提供



オンライン診療車の体験

●相談会のメリット●

- ・専門職による個別相談
- ・栄養パトロールで今の健康をチェック
- ・管理栄養士のアドバイスをもとに食の提供
- ・通院が困難な場合でもオンラインでつながる診療車の利用体験
- ・医療と介護のなんでも相談・障害福祉施設の製品販売
- ・世代を超えた地域交流とつながりづくり



7

ふらっとよりみち相談会の事業は

セルフネグレクトに気づき、防ぐことにもつながる。
本人が自覚していないケースも多く、助けを求めないまま社会的に孤立を深めることも多い。

民生委員は地域の①声かけ②住民同士の交流の支援、暮らしぶりを見守り、必要なときには関係機関につなぐ活動を心がけている。

- セルフネグレクトのサイン
- ・健康の放置(必要な食事をとらない、栄養失調、体調不良・けがでも病院に行かない)
- ・不衛生な身体(長期入浴・歯磨きをしない、着替えをしない)
- ・住環境の悪化(ごみを捨てられない、ごみ屋敷)
- ・社会との断絶(必要な福祉サービスの利用を拒否、家族・友人との連絡を避ける)

- ・キッチンカーで提供された軽食を食べ、参加者同士で交流ができ「久しぶりに会えてよかった」と再会を楽しむ様子がありました。
- ・オンライン診療車の体験では「実際に見ることができてよかった」と気になった新たな医療受診の形を身近に感じました。
- ・みなさんと食べることを楽しみながら、栄養パトロールへの関心を持ちました。
- ・専門職と話し、健康で暮らすための必要なことを確認できました。



まとめ

成果



- ①月一で開催する定例会では、委員相互において地域の情報交換を密にし、地域全体で見守る、支える、必要機関につなぐなど、全員で協議したうえで対応する体制が継続できている。
- ②定例会時に市の出前講座で研鑽を積み、日頃の活動に役立てている。
- ③ライン活用は迅速な連絡だけでなく、地域の情報や研修報告など有効な情報伝達により、情報共有に役立っている。
- ④地区の行事に関し、地区社会福祉協議会や各種団体と運営に協力する中で、地域住民に声かけをし、見守りと住民の交流を広げている。
- ⑤三富民児協、みとみ山桜会、愛育会が共催し、ミニデイサービスで七夕まつり、クリスマス会、ひな祭り会を開催し利用者と地域住民との交流を図ることができた。
- ⑥地域防災会議で区長、地区社会福祉協議会、民生委員合同で情報共有、意見交換ができた。

課題と目標

- ①三富地区は顕著に高齢化・少子化が進んでいる。健康や暮らしに関する情報や福祉サービス、買い物支援事業などの利用を支援し、地域住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献したい。
- ②孤独孤立のないよう、住民同士や地域のつながりを広げるために、地域行事やいきいきサロンの普及にも協力し、高齢者に寄り添っていききたい。
- ③日常の見守り活動を継続し、住民との信頼関係を築き、区長会、地区社会福祉協議会、地域諸団体、行政との連携に努め、地域共生社会に寄与していきたい。
- ④災害時の対応として、区会と民児協等が連携して、地域の把握、情報共有することが必要。避難行動要支援者名簿の作成・見直し。
- ⑤ケアマネジャーなど、多職種との情報共有が必要。
- ⑥市営バス廃止。デマンド交通になったが、高齢者に利用方法を啓発。
- ⑦今後も県・市の研修会に積極的に参加し、スキルアップをし、情報提供や見守り活動にあたっていく。

地域住民が
仲良く暮らして
いけることが
大切！

民生委員・児童委員

地域の身近な相談役として、地域の人たちの暮らしを気にかけて、必要とあらば相談機関へつなぐ役割を担っている民生・児童委員。市内では、112人の民生委員、17人の主任児童委員が各地域で活躍しています。

三富は山間地域で離れているので情報の伝達が課題。
情報を届けるため、いきいきサロンに出前講座を活用し
ている。情報伝達には、口コミが一番効果的。

地域全体を良くするために、自分の家だけ良ければよいのではなく、隣の家にも声を掛けて見守りながら、住みやすい地域にしていきたい。

認知症などがあっても、恥ずかしがることなく共有することで、いざという時に協力し合うことができ、暮らしやすくなると思う。

また、民生委員は行政とのつなぎ役なので、困ったときは気兼ねなく地域の民生委員に声をかけてほしい。

山梨市民生委員児童委員協議会 会長 荻原眞紀子さん



2024年6月号 山梨市広報掲載

10

